ニューガラス関連学会

# 「GIC 第 8 回ガラス技術シンポジウム」参加報告

（一社）ニユーガラスフォーラム事務局

# Report on the 8 th Glass Technology Symposium sponsored GIC

New Glass Forum

## 1．経緯

ガラス産業連合会（Glass Industry Conference）がガラス 6 団体で設立されて，12 年目となります。GIC の主な役割は構成するガラス関連 6 団体（板硝子協会，硝子繊維協会，電気硝子工業会，（一社）日本硝子製品工業会，日本ガラスびん協会，（一社)ニューガラスフォーラム）の共通する技術課題のフォローや新年会など重複する行事の遂行をすることです。

ガラス技術の交流が，特に学会と産業界の間で不足しているとの反省から，産学交流活性化の応策として 8 年前から，日本セラミックス協会ガラス部会主催の「ガラスおよびフォトニックス材料討論会」の初日の午後に共催プログラムとして「ガラス技術シンポジウム」を開催することになりました。また，ポスターセッションではガラ討と合同でポスターセッション，研究室紹介，その後の懇親会を行っています。

初回の滋賀県立大学「ガラスの破壊・強度」，東京理科大学「環境とガラス」，豊橋技術科学大学「環境負荷の低減に向けて」，東北大学「ガラスと表面」，京都大学「エネルギーとガラス」，東京大学「リサイクル技術とガラス」，兵庫県立大学「評価・解析・検査技術の今昔」と行われてきております。今回は，10 月 25 日（木）に北海道大学学術交流会館で開催されました。懇親会は，すぐそばのアスペンホテルで

行なわれました。

当フォーラムでは，丸山勉企画部長が事務局として準備を進めてきました。当日の参加者は 155 名（二日間合計で 178 名）でした。

## 2．講演テーマと講演者

今回の講演のテーマは，「ガラス製造を支え

る先端技術」ということで，冒頭，GIC 運営・技術委員長，岡本硝子の新井氏と GIC シンポジウム WG 主査の旭硝子の前田敬氏より挨拶がありました。①「日本鉄鋼業の環境・社会との調和　～新日鐵の活動を例として」（新日鐵住金・村上英樹）　②「革新的技術としてのガラスの気中溶解」（旭硝子・田中千禾夫）　③「パナソニックにおける非球面モールドレンズ開発の歩み」（パナソニック・田中康弘）　④「ガラス研磨理論と酸化セリウム代替研磨材」（富士通研究所・岸井貞浩）の 4 講演が行われました。例年の 5 講演より 1 講演減らし，講演時間を長くしたことと，異業種からの講演を取り入れたことは，好評だったようです。

ポスターセッションでは，GIC テーマとして 20 件の発表がありました。参加機関は，旭硝子，五鈴精工硝子，大阪府立大学，折原製作所，京都大学，セラミックフォーラム，セントラル硝子，田中貴金属工業，東京工業大学，東京大学，東芝機械，東洋ガラス，ニコン，日本板硝子，日本スピンドル製造，日本電気硝子，

富士通研究所，物材機構，北海道大学，ユミコアジャパン，FLAMMATEC（五十音順）でした。例年のように GIC の活動紹介のポスターとニューガラスフォーラムからガラス種 30 万以上収録の「INTERGLAD Ver 7. 2」のポスター展示がおこなわれました。

## 3．余話

初めて訪れた北海道大学は，正門まで札幌駅から歩いて 7 分と極めて近く，学術交流会館は正門のすぐそばにあります。

構内は，クラーク博士の像をはじめ歴史を感じさせる建物が建っており，大自然いっぱいのキャンパスとともに落ち着いた雰囲気を醸（かも）し出していました。25 日の昼食は，大学に詳しい知人お勧めの大野池そばのレストランエルムのクラークカレーを食べ，26 日の昼食は交流会館そばのきゃら亭のエゾジカのステーキに舌鼓を打ちました。この日の夜は足を延ばして小樽観光をして札幌に延泊し，翌日に時計台を見学してから旧道庁を見学していると，庁舎内でＸ大学のＡ先生に，庭園に出るとＹ大学のＢ先生に出会い，誰もが行く有名な観光スポットの限られた市内ならではの光景でした。